

鎌倉・九条の会 ニュース

第2号 2008年8月19日発行

鎌倉・九条の会

TEL:0467-24-6596

FAX:0467-60-5410

0467-24-6577

Email: iza@kamakura9-jo.jp

HP:http://www.kamakura9-jo.jp



鎌倉市「平和都市宣言」50周年に

鎌倉市は今年平和都市宣言から五十周年を迎えました。

私たち市民は五十周年の今年四月二十五日、九条ピースパレードに三百人が参加、若宮大路で宣言の精神をアピールしました。

「鎌倉市は、戦後、全国にさがけていち早く平和都市宣言をした自治体です。そして、平和都市としての鎌倉市民憲章をもっています。」

これは二〇〇五年二月に「鎌倉・九条の会」発足を呼びかけた井上ひさしさん、内橋克人さん、なだいなださんによるアピール文の一節です。

私たち市民が鎌倉市の行政の基本理念を議論するとき、しばしば口にする内容とまさに同じフレーズです。

三年前はどういう時代

「鎌倉・九条の会」発足を呼びかけた、当時のアピール文は続けて訴えています。「戦争を拒否し、平和を求めるといふこのあたりまえのことばを、ことさ

ら声高に叫ばなければならぬ時代になってしまいました。「平和都市の名にふさわしく憲法9条を守るためあらゆる努力をしていくことを、鎌倉市民のみならず訴えます。」と続けていま

五十年前はどういう時代

鎌倉市は一九五八年八月十日から三十年目に、「宣言30周年」を記念して冊子を編纂しています。そこには市民、市長、議会が一体となった自治体挙げての運動が展開された当時の姿がわかりやすく記載されています。

米ソ両大国をはじめ安保理事国の各国が原爆から水爆へと保有を指す世界情勢の中で、平和に徹した自治体であることを数万の市民が集まる中で宣言したので

は、宣言文が掲げられていますが、当時法政大学の総長であった大内兵衛の揮毫によるものです。経済学者であると同時に、当時七十歳になつてなお活発な実践家であった、獨創性豊かな文化人の姿を彷彿させます。

先月多くの方々が鑑賞

した『日本の青空』で、民間の「憲法研究会」高野岩三郎が印象に残っています。

高野岩三郎は、統計学者で戦中・戦後貴重な活動を展開しました。

鈴木安蔵を第1号として捕え、京大退学を余儀なくさせた治安維持法より古い言論弾圧事件、東大森戸事件で東大を追われた経済学者森戸辰男、大内兵衛を高野岩三郎は大原社会問題研究所に招いています。

このように『日本の青空』を出発点にして近代史をひもとくこともできましょう。



市役所横に立つ「平和都市宣言」「鎌倉市民憲章」は市議会全員一致で採択。一体のものとして、今こそ市政に生かされることを宣言五十年の今年、市民は望んでいます。

「日本の青空」上映会を終えて

太陽は毎日同じ

ように輝いているのに、人の心がそれを見えなくすることがある。

一九四五年八月十五日、誰もが空の青さに気付いたようだ。

映画は、月刊誌の派遣社員沙也可が「特集・日本国憲法の原点を問う」に企画を出す事になり、在野の憲法学者・鈴木安蔵の取材を始める。

映画には色々な要素が盛り込まれ、劇映画としても面白いが、「現憲法はGHQの押し付けではなかった」と言う真実とその証拠とも言えるような事柄を三点挙げてみたい。

一 いま憲法改正を唱え

る人々は、あたかも日本人にはデモクラティックな考え方がないと思ひ込んでいるようだ。が、憲法研究会の七名は揃って言論を巡り弾圧された経験をもつ。また、九条に関して言うならば、

「幣原首相の言葉を聞いたマツカーサーから生まれた」という説を取っているが、実は吉野作造の「軍部批判」や植原悦二郎の「武断政策排除」が英米の日本研究に強い影響を与え九条へと繋がった。更に時代を遡れば自由民権運動や五日日市憲法にそれらの考え方はすでに現れている。

二 当時「憲法研究会」は、

一九四五年十二月二六日に草案をGHQと日本政府に提出している。政府案は翌年二月八日にGHQに提出されたが拒否され、逆にGHQからはその対案が、五日後には吉田、松本、白洲他に手渡されている。この短期間にGHQだけで他国の憲法を作れるはずがない。当然その前に提出され高く評価されていた憲法研究会案を下地にしたはずだ。

三 GHQのこの五日間

の作業は極秘で進められたこと。また二月十三日にGHQ案を手渡された時、松本國務大臣が

【次ページ上段に続く】

憲法への思いが、

たくさん

来場された10代から80代のみなさまより129通ものご感想をいただきました。

「憲法の成立過程がよく分かった。」「もっともっと多くの人に見てもらいたい。特に若い人に見て欲しい。」「など、憲法や9条への思いがたくさん寄せられました。

て、絶対に無くしたくないと改めて思いました。」

(30代女性)

「知らないことが分かった喜び。とくにベアテ・シロタさんのこと、女性の地位のこと分かりました。」

(70代女性)

「とても勉強になりました。帰って子どもに語りたと思います。」

(40代女性)

『押しつけ』の法ではなく、戦争の教訓を生かしたすばらしいものだということがわかりました。とても良い映画だと思えます。ぜひもっと多くの人に見てもらいたい。友人にも勧めてみようと思いました。」

(20代女性)

「とても勉強になりました。『私たちの憲法』に絶対していかなくては！と心新たに思いました。」

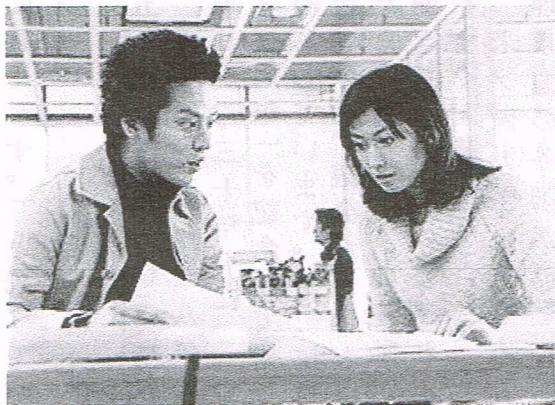
(40代女性)

「現憲法がGHQの押しつけでないこと、はじめて知りました。鈴木安蔵という人も知りませんでした。絶対に守らなければならぬと思います。特に9条は。」

(60代女性)

「自由民権運動や五日日市憲法まで遡り、鈴木安蔵が草案を書く

【次ページ3段目に続く】



いくつかを紹介します

「9条に含まれる想いを教えてもらいました。子を持つ母とし

ホイットニー准将の言葉を「これを受け入れなければ天皇の身が危ない」と誤解した事。
……

こうして出来上がった「押し付け論」の上に、安倍前首相は議論も尽くさないまま憲法改定の国民投票法を成立させてしまった。するとまだ憲法は生きていくのに、改正の是非を口にしてはいけなような空気が流れ出す。

市民が意思表示した

この上映に際し「鎌倉で『日本の青空』を観る会」は鎌倉市と鎌倉市教育委員会に後援を申請したが「政治活動の一環と認められる」との理由で断られた。中野区、練馬区、調布市、国分寺市でも同様のことがあったが、特に鎌倉市は五十年前に日本で初めて平和都市宣言（上映会当日のパンフレットに「憲法前文」と共に載せた）をしているにも拘わらずこのような判断を下したことは市民として恥ずかしい限りだ。

しかし七月十四日の当日と六月六日の試写会を合わせると、市内外から千人近い方々が鎌倉

生涯学習センターホールに参集してこの映画を観てくださり、喜んで下さった事が、後援を断った鎌倉市にたいし、市民の何よりの意思表示になったと思う。

「青空」を胸に

危うい昨今、青空があるのに見えなくなるような時代が再び来ないよう、「鎌倉・九条の会」は今日も青空を胸に頑張っている！

【当時の憲法草案】

① 一九四五年二月二七日発表

憲法研究会の憲法草案要綱（高野岩三郎、森戸辰男、鈴木安蔵ら七人）
基本原則・日本国の統治権は日本国民より発す。天皇は国政を親らせず国政の一切の最高責任者は内閣とす。
② 一九四六年一月二〇日発表
日本自由党の憲法改正要綱、天皇・統治権の主体は日本国家なり。天皇は統治権の総攬者なり。天皇は万世一系なり。天皇は法律上及び政治上の責任なし。

② 他にも政党や個人の私案の発表があった。

【右のページから続く】

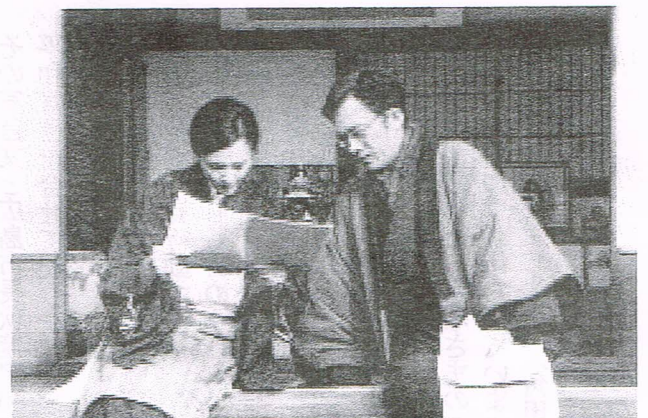
ところ、各界の学者等が意見をたたかわせるところがよく描かれていました。」（60代男性）

「小学生の子どもとみました。憲法については、大人になるまえにやわらかい心のうちに知らせたいと思っています。学校でも（内容はむずかしいので中学生以上）見られるようになればいいと思います。」（40代女性）

「憲法問題について考える（向き合う）機会を得ました。あたりまえすぎる（平等や参政权等）の大事さや偉大さをあらためて感じました。」（30代女性）

「日本の憲法について、改めて考えさせられる映画でした。わかりやすい内容で、とてもよく理解できました。日本国憲法はGHQが押しつけたものではなく、日本人が作ったものがモデルだという事実がわかって良かったです。」（10代女性）

「一九四五年の十月十四日に、毎日新聞に婦人参



政権決定の記事が載り、紙面でも昭和六年、満州事変を起こした年に、陸軍参謀本部が、女に参政权を与える戦争に反対するからと、当時の婦人参政权法案つぶしに動いたのです」との新聞記事を読んだ鈴木安蔵夫人は『やっぱり・・・』とつぶやいたことに共感しました。」（60代女性）

「日本国憲法の本当の成立過程をわかりやすく表現している見事な作品でした。」（60代男性）

多くの感想ありがとうございます。

〈9条を考える九月のつどい〉

生き残った特攻隊員・松浦喜一さんが語る「日本国民と特攻隊」
編集者・原田奈翁雄さんが話す

「日本語が死んだらどうなる?」

〈9条を考える九月の集い〉

日時: 2008年9月18日(木)
14時30分~(開場、14時)

会場: 日本キリスト教団恩寵教会

参加費: 800円

主催 鎌倉・九条の会
湘南YWCA 鎌倉恩寵教会

戦争で死んだ人たち、特攻で突入していく若者たちは、死の直前に何を思っていたでしょう。

国家に殉ずる純心でいっばいだったのでしょうか?

沖縄戦最後の特攻の出撃、突然の天候悪化で引き返し、生き残った松浦さんが、そのときの思いを語る。

死者たちの声を背に、戦争とは? 国家とは? と問い続ける松浦さんの話によって、靖国派などの特攻隊美化論のあさはかさが明らかになります。

松浦さんの著書の出版に協力し、い

ま「ひとり九条の会」のネットワーク作りを努める原田さんは、自衛隊イラク派兵違憲訴訟について話します。

2周年をむかえた 9の日行動

二年前の二〇〇六年八月九日、鎌倉・九条の会が「9の日行動」を鎌倉駅前でスタートさせました。

赤い枠の模造紙大の厚紙に九条の条文を書いたものと虹色の即席鎌倉・九条の会の旗を地下道の壁に貼り付け、葉書大二つ折りのリーフ4種類160枚を8人で30分足らずのうちに配りました。中学校の時の同級生が通りかかり、「戦争はみんな好きなんだよ」と言われ、驚きました。

みんなで作った鎌9の旗

十月には一ヶ月かかってみんなで作ったブルーの布製鎌九の旗も完成、以後はこの旗がいつも一緒です。「危ないことはないですか。危険を顧みずにやってくれて感謝です」と言ってくださる方もいれば、「余計なことをするな」と言う方も。

北海道から沖縄まで全国各地から鎌倉を訪れた人の中から、「私達もやります。頑張りましょう」と言われて、

握手したことも何度もありました。

毎月「9の日」に

9の日行動は毎月九日、平日なら三時から、土・日・休日なら十一時から鎌倉駅前小町通り入り口周辺で行っていますが、一月と五月は九日ではなく、

一月の場合は成人の日にあわせて成人式会場前で実施しています。去年は友達とのお喋りに夢中で、受け取ってくれる人が少なかったため、今年はお戦を変え、成人用の特別版リーフを用意し、スタッフも20名参加、キヤンディや、洗濯バサミに姉様人形や羽子板をつけたものを一緒に配ったとしても評判がよく、来年はもっとたくさん配れると思いました。

五月には憲法記念日にあわせ五月三日に行っています。成人の日同様、憲法記念日にこそ普段とは違う取り組みをしたいと思っていますが、実現していません。

お兄様を硫黄島で亡くされたという七十代の方の「戦争はいけないけど、徴兵制は必要」との言はどう理解したらいいのか考えさせられました。

十二月は「9条」と白く染め抜かれたりんごを首にかけて立ちました。りんごに興味を持った群馬県富岡で働いている中国人の若者三人と交流し、年賀状ももらいました。

リーフの種類も増えて

現在、リーフは8種類に増え、今年四月からは英文のものも配布しています。外国人はとも受け取りがよく、その場で立ち止まって読んだり、話し掛けてくる人もいます。先日行った直近の八月九日にも、片付けをはじめた時に外国人のグループが通りかかり、あつという間に十部以上を配りました。小・中学生ももらいがよく、好奇心旺盛、旗の鳩に興味を持ちたり、自分ももらったのでないリーフを欲しがったり、「(改憲しようとする人は)どこを変えようとしているんですか。」と意識の高い質問をした中学生もいました。

今年八月の行動日のこと

八月九日は長崎原爆記念日でもあります。また八月十日は鎌倉市が平和都市宣言を制定して五十年に当たるので、その宣言文と広島市長秋葉忠利さんの平和宣言を合せて配りました。

九月九日は函館からの呼びかけに答え、全国一斉行動です。

去年は子どもも含め40人が集まり、横断幕を作り、アピールしました。教会の鐘を九時九分に9つ鳴らしてもらったりしました。

2年間で9、300余枚のリーフを延べ291名のスタッフでお渡しすることができました。みなさまの9の日行動への参加をお待ちしています。ごいっしょにやりましょう。(角田淑恵)